

3 教科指導

【高校教科】	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
国語	①高校国語への生徒の興味・関心を高め、拡充・深化することで高度な国語力を育てる ②広く深い知識・教養を身につけさせることで、生きた国語力を獲得しさせる ③各自の進路希望を達成できる国語の学力を身につけさせる ④各コース間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、効果的な生徒の育成につなげる	①授業内容の工夫に取り組み、国語の学習への関心を高める。 ②授業内容の質を広げ高めるために、有効な教材を精選する。 ③入試情報などを教科で共有し、生徒に役立たせる。	B	この一年間、コロナ禍の授業の中で工夫の連続でした。学びを深める授業展開に苦勞しました。又、共通テストなどの大学入試制度の変化への対応もありました。しかし、目標を実現する為に努力を重ねたと考えています。
地歴公民	①社会事象に対する興味・関心を育てる ②探求する力を身につけ、実践力をつける ③知識・教養を身につける力を獲得させる	①新聞記事などを活用し、地歴・公民の各分野の学びとの関連性に気づかせる。②レポート作成・発表などを通して、探求する喜びを味わう機会を与える。③どのようにして新たな課題を見いだすか、学年間で連携・協力して智慧と工夫を働かせる。	B	コロナ禍にあつて、限られた時数のなかで、学びを深める授業展開を実現することは極めて困難でした。学年間の連携・協力についても、大学入試制度の大幅な変容を受けて、難渋しました。しかし、むしろ、こうした中にあつて、掲げた努力目標を懸命に実現しようとしたことに大きな意義があつたと思います。
数学	①生徒の、高校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育てる ②各自の進路希望を達成できる数学の学力を養成する ③各コース間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、効果的な生徒の育成につなげる	①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピックや数学甲子園等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める。 ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る。 ③入試情報などを共有し、生徒の進路達成に役立たせる。	B	授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できたが、まだ十分ではない。 コロナウィルスでの休校による影響で授業の進度に遅れが見られるので来年度までのスパンで回復をする必要がある。 教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい。
理科	①科学的興味関心の向上 ②科学的思考の養成 ③科学的態度や知識の積極的な習得	①視覚的な教材をより多く使用する ②実験観察を中心に授業を展開する ③実験観察から見える法則性を見出す能力を高めるように、レポートやノートの書き方の指導を行う	①B ②B ③A	①具体的事例を交えて授業を展開した。 ②実験実習を積極的にに行った。 ③課題研究を含めてレポート指導を行った。
保体	①体力の向上 ②基本技術の向上 ③事故やけがの予防・防止に努める (特に熱中症) ④オリンピック・パラリンピックについて知る	①授業始まり時のランニングや体づくり運動を積極的に取り入れる。 ②基本動作の反復練習を根気よく実践する。 ③体育用具や施設の点検、ウォーミングアップはもちろんクールダウンを実践する。また、気温や湿度には特に注意を払い、日陰での休憩や水分補給を心がける。 ④DVDやプリントなどの資料を利用した授業を実施する。	①B ②A ③A ④B	コロナ感染症の感染拡大により、休校やオンライン授業となり、学校再開後も多くの制限があることから、体力アップや基本技術のレベルアップにつながるような授業が実施できなかった。また、オリンピックやパラリンピックも延期となり、インターハイをはじめとする全国大会や九州大会等も中止となったため、授業内容を変更して、ソーシャルディスタンスを意識した実技の授業を工夫しておこなった。 本年度の体力低下については、来年度の授業を更に工夫して補っていきたい。
外国語	①「新テスト」に対応した授業コンテンツの実施 ②①に必要な、4技能習得のための環境整備 ③教員の技能・資質の向上	①「新テスト」では従来のリーディング、リスニングに加えてライティング、スピーキングといったアウトプット・スキルも求められる。そのため、その4技能を測定できるGTECを全員に実施し加えてそのための授業コンテンツを実施する。 ②具体的にはネイティブ講師とのティーム・ティーチングやオンラインのスピーキング講座を充実させ、必要なICT機器も補充する。 ③①のような大学入試に係る状況の変化に対応するため、教職員向けの研修機会を充実させる。	B	①計画通り全学年でGTECを実施し、4技能の総合的な育成を意図したアクティブ・ラーニングを充実させた。 ②オンライン・スピーキング講座を、学年を拡大して実施した。TTについては前年度と同じコマ数を実施したが、できればネイティブ講師を2人にしてさらに拡充させたい。 ③英語科職員向けの研修会をオンラインで実施し、外部の研修会も積極的に紹介して参加を促した。
家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代の社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習、実験内容の精査 ③研修、研究の実施	①A ②A ③B	食生活・衣生活・保育を中心に家庭科の基礎基本を身につけるような授業ができた。実習については、刺し子の被服実習に取り組んだり、年度当初のオンライン授業では布を使わないマスクづくりをするなど将来だけでなく、今の社会の現状に沿った内容に取り組むことができた。研修は高齢社会のなか、認知症フレンドリー社会に生徒たちがアップデートできるような教材研究に取り組んだ。
情報	①情報Ⅰへの移行を目前に控え現科目「社会と情報」では、少し弱いと思われるプログラミング領域の教科を図る必要がある ②また、ICT環境の整備を充実し、教科情報の基盤作りを強化したい ③各教科での情報活用能力育成をにらんだ基礎的な技能や思考力を更に充実する必要がある	①経済産業省の指定を受けて、プログラミング言語の教材導入ができ、高校3年生及び2年生に先行試行を行った。 ②教科情報実施のためのPCをすべて更新するとともに、全普通教室にプロジェクトの常設が完了する見込みである。 ③英語、道徳、課外活動の授業や活動にPC教室が例年以上に活発に活用された。	①B ②B ③B	①プログラミング言語領域の導入に一定の目処がたった。 ②ICT環境を情報の観点から整備ができた。今後は一人1台の環境整備に向かうべきである。 ③全教科で情報活用能力を意識した授業が実践できるようにしていくことが今後の課題である。

4段階評価 A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
C：やや改善なし D：全く改善なし